様式 3(20140401)

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	ICG 検査結果および EOB-MRI 画像信号強度と肝トランスポーター発現との関連
研究責任者	第二外科　講師　坂口孝宣
研究機関名	浜松医科大学　第二外科
研究目的と意義	肝悪性腫瘍に対して最も治療効果が高い治療は手術です。ただ、肝切除後の肝不全は致命的であり、術前に肝機能を十分に評価することは重要です。術前に肝機能を評価する方法として、インドシアニングリーン(ICG)を用いた ICG 検査が一般的で、これは ICG が肝細胞膜に存在する薬剤輸送装置（トランスポーター）によって特異的に肝細胞内に取り込まれることを利用しています。 近年、肝特異的 MRI 造影剤であるガドキセト酸ナトリウム(Gd-EOB-DTPA)を用いた EOB-MRI 検査が行われています。Gd-EOB-DTPA は ICG と同じトランスポーターを介して肝細胞内に取り込まれるため、近年 EOB-MRI 画像信号強度から肝機能を推定できる可能性を示した報告があります。しかし、実際に肝臓におけるトランスポーターの発現と ICG 検査結果や EOB-MRI 検査の画像との関連を検討した論文は認められません。 そこで、本研究では切除された肝臓におけるトランスポーター発現の程度と、ICG 検査結果および EOB-MRI 画像信号強度との関連の有無を検討することです。
研究期間	西暦　2016 年 5 月（倫理委員会承認後）～2018 年 3 月
研究方法	●対象となる患者さん： 当院において、肝悪性腫瘍に対して術前に ICG 検査および EOB-MRI 検査を行い、その後肝切除術を施行された方 ●研究に使用する試料： (1)診療録 (2)血液検査結果・ICG 検査結果 (3)CT 画像・MRI 画像 (4)術後病理検査結果 (5)免疫染色検査 ●研究方法 当院で肝悪性腫瘍に対して術前に ICG 検査および EOB-MRI 検査を行い、その後肝切除術を施行された方の切除検体に、肝細胞膜上に存在するトランスポーターの免疫染色を追加で行い、その結果と ICG 検査結果および EOB-MRI 画像信号強度とに関連の有無を評価する。
問い合わせ先	〒431-3125 浜松市東区半田山一丁目 20 番 1 号 浜松医科大学医学部附属病院 診療科：外科学第二講座 担当者：木内亮太 TEL：053-435-2279　　FAX：053-435-2273